特集
記　事
Miscellaneous Reports

日本ジオパーク全国大会における分科会「ジオ・エコ・ヒト　－なぜジオパークで生態学？」開催の経緯とねらい

The objectives of the session “Why ecology in geoparks?” held in the national conference of Japanese geoparks

平田 和彦[1, 2*]・中村 真介[1, 3, 4]・藤井 利衣子[1]・加藤 雄也[1, 5]・福井 智香子[1, 6]
HIRATA Kazuhiko[1, 2*], NAKAMURA Shinsuke[1, 3, 4], FUJII Riyeko[1], KATO Yuya[1, 5] and FUKUI Chikako[1, 6]

1: 日本ジオパークネットワーク生態学ワーキンググループ　2: 千葉県立中央博物館分館海の博物館　3: 株式会社ジオ・ラボ　4: 一般社団法人北海道三笠観光協会　5: 一般社団法人ノヤマカンパニー　6: 三好ジオパーク構想推進協議会
1: Ecology Working Group of Japanese Geoparks Network　2: Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba　3: Geo. Labo. Co.,Ltd.　4: Hokkaido Mikasa Tourism Association　5: General Incorporated Association Noyama Company　6: Miyoshi Geopark Promotion Council

2024年1月12日投稿，2024年5月14日受理

2008年に日本に最初のジオパークが誕生してから約15年が経過した．当初はジオパークと言えば地質や地形に偏ったイメージが定着していたが，認定されるジオパーク地域が増え，活動が深化するにつれて，大地だけでなくそこに根差した生態系（e.g. 平田，2016；2023）や文化（e.g. 五十嵐，2016）などにも目が向けられるようになってきた．今日のジオパークの現場では折に触れて「ジオ・エコ・ヒト」というフレーズが聞かれる．また，各地のジオパークで主に生態系や文化などに焦点を当てたサイトの設定や，地球科学以外の分野のジオパーク専門員の採用が増加傾向にあることも，その時流を示していると言えよう（菊地ほか, 2017）．

2017年には生態学や関連分野のジオパーク専門員や研究者が中心となり，ジオパークにおいて「生態資源(1)」の保全と活用を促すことを目的として，日本ジオパークネットワーク（以下，JGN）の運営会議の下部組織である「生態学ワーキンググループ（以下，生態学WG）」を設立した．生態学WGではこれまでに，ジオパーク認定審査の評価書における「エコ」に関する記述に着目した議論を重ね，その成果を日本ジオパーク全国大会や学会で発表してきた（藤井, 2024）．

しかし，依然として「エコ」が何を示しているのか，なぜ重要なのか，ジオパークに携わる者の間でも十分に理解が共有されているとは言いがたく，どのような活動を展開すれば良いのか分からない地域も多いのが実情である．そこで，これらの課題解決の足掛かりとするために，本稿の筆者5人がコーディネーターとなって，生態学WGが企画する初めての分科会を2023年10月28日に第13回日本ジオパーク全国大会 in 関東において開催した．ジオパーク全国大会の分科会は学会に比べて，ジオパーク専門員や研究者だけでなく，ジオガイドや行政職員など，ジオパーク活動に取り組む様々な立場の人々が参加できる．また，口頭発表やポスター発表に比べて，興味の近い多くの人が一堂に会して情報を共有し，双方向的に議論を展開できる．本分科会ではこれらのメリットを活かし，1）参加者全員でジオパークにおける「エコ」に関する共通認識を深めるとともに，2）「エコ」を軸とした交流・議論を活発化させるきっかけを作ることを目的として掲げた．

分科会は講演と座談会の2部構成で実施した（表1）．講演では「ジオパークにおける『エコ』の現在地」をテーマに，ジオパークにおける「エコ」の重要性を特にプレート境界に位置する島国である日本の地理的特性に注目して概説したのち（平田，2024），生態学WGのこれまでのあゆみ（藤井, 2024），そして日本および世界のジオパークにおける「エコ」を取り巻く認識や活動の現状を紹介し（中村, 2024），会場の全員でその後の議論の土台となる情報を整理・共有した．そのうえで座談会では２つのトピックを掲げ，１つ目の「ジオパークの中で『エコ』的なものをどう守る？：エコロジカルサイトの設定」について三好（福井，2024），四国西予（加藤，2024），伊豆大島（伊藤，2024）の3地域から，2つ目の「ジオパークの中で『エコ』的なことにどう取り組む？：観光客や地域住民との関わり」について山陰海岸（太田，2024），土佐清水（森口，2024），隠岐（立花，2024），鳥海山・飛島（長船，2024）の4地域から，それぞれの地域で関連する活動に当事者として携わってきたジオパーク専門員や研究員，学芸員が実例を紹介した．

*Corresponding author：平田 和彦　*Email address*: k_hirata@chiba-muse.or.jp

表1　分科会「ジオ・エコ・ヒト　―なぜジオパークで生態学？」のプログラム
Table 1. Program of the session “Why ecology in geoparks?”

演　題	演　者	地　域	司会・座長	予定時間（分）
第1部：ジオパークにおける「エコ」の現在地			加藤雄也	
趣旨説明：ジオパークでこそ生態学！	平田和彦			15
話題提供：生態学ワーキンググループのあゆみ	藤井利衣子			15
話題提供：ジオパークにおける「エコ」	中村真介			30
第2部：座談会			中村真介	
トピック1：ジオパークの中で「エコ」的なものをどう守る？：エコロジカルサイトの設定			平田和彦	
守るための戦略の１つ：エコサイトの設定	福井智香子	三好ジオパーク構想		10
ツル・コウノトリの飛来地を生態サイトに指定するまでのプロセス	加藤雄也	四国西予ジオパーク		10
進化を踏まえたジオのエコ	伊藤　舜	伊豆大島ジオパーク		10
トピック2：ジオパークの中で「エコ」的なことにどう取り組む？：観光客や地域住民との関わり			福井智香子	
山陰海岸ジオパークエリア沿岸の海の生物に関する取り組み	太田悠造	山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク		10
土佐清水ジオパークにおける植物調査の取り組み	森口夏季	土佐清水ジオパーク		10
隠岐ジオパークの事例紹介：ハマナス保全活動の苦悩と未来	立花寛奈	隠岐ユネスコ世界ジオパーク		10
事例報告－生態学エッセンスで地域社会を変えたい	長船裕紀	鳥海山・飛島ジオパーク		10
総合討論				20
まとめ	平田和彦			5

本分科会では，どの地域でどのような人がどのような活動を展開し，どのような悩みを抱え，どのような理想を描いているのかを参加者が互いに知ることで交流・議論を促し，そのきっかけを作るという目的は果たせたと筆者らは考えている（平田ほか, 2024）．さらに多くの地域・人々に生態学WGの活動や本分科会の成果を発信し，ジオパークにおける「エコ」に関する資源の保全と活用を促すことを目的として，ここに特集を組み，本分科会の内容を記録する．

注

（1）ここではジオパークで活用しうる生物やその生育・生息環境，生態系と定義する．これまでの生態学WGの活動でしばしば使われてきた（藤井, 2024）．

文献

藤井利衣子（2024）日本ジオパークネットワーク生態学ワーキンググループの活動　－これまでのポスター発表を中心に. ジオパークと地域資源, 6（1）, 7-9p.

福井智香子（2024）自然遺産を守るための戦略の1つ：三好ジオパーク構想のエコサイトの設定 . ジオパークと地域資源, 6（1）, 16-21p.

平田和彦（2016）生物多様性．In: 目代邦康・鈴木雄介・松原典孝（編）．「関東のジオパーク」. 古今書院, 104-106p.

平田和彦（2023）地球を魅せる鳥たち． Geopark magazine, 10, 34-37p.

平田和彦（2024）ジオパークでこそ生態学！. ジオパークと地域資源, 6（1）, 4-6p.

平田和彦・中村真介・藤井利衣子・加藤雄也・福井智香子・伊藤　舜・太田悠造・長船裕紀・立花寛奈・森口夏季（2024）分科会「ジオ・エコ・ヒト　―なぜジオパークで生態学？」の成果：「エコ」に関する理解の共有と交流の活発化. ジオパークと地域資源, 6（1）, 63-67p.

五十嵐祐介（2016）文化財の保護と活用．In: 目代邦康・鈴木雄介・松原典孝（編）.「関東のジオパーク」. 古今書院, 90-91p.

伊藤　舜（2024）進化が繋ぐジオとエコ：　伊豆大島を例として. ジオパークと地域資源, 6（1）, 28-32p.

加藤雄也（2024）四国西予ジオパークにおけるツル・コウノトリ飛来地を生態サイトに指定したプロセス．ジオパークと地域資源，6（1）, 22-27p.

菊地直樹・大谷　竜・渡辺真人・柴田伊廣・斉藤清一（2017）ジオパーク専門員の属性と持続可能な地域づくりに果たす多面的な活動．ジオパークと地域資源, 3, 13-26p.

森口夏季（2024）土佐清水ジオパークにおけるジオパーク，植物園，市民が連携した植物相調査の取り組み. ジオパークと地域資源, 6（1）, 40-47p.

中村真介（2024）日本のジオパークにおける「エコ」の捉え方　－ジオパークにおける自然遺産の保護へ向けて－．ジオパークと地域資源, 6（1）, 10-15p.

長船裕紀（2024）生態学エッセンスで地域社会を変えたい －鳥海山・飛島ジオパークにおける取組み．ジオパークと地域資源，6（1），55-62p.

太田悠造（2024）山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク西部，鳥取県岩美町浦富海岸における専門家を招聘した海岸生物相調査とその成果活用. ジオパークと地域資源, 6（1）, 33-39p.

立花寛奈（2024）隠岐ユネスコ世界ジオパーク地域におけるハマナス保全活動の苦悩と未来. ジオパークと地域資源, 6（1）, 48-54p.